

株主・投資家との対話

基本的な考え方

三菱電機グループでは、株主・投資家の皆様からの理解と信頼を得るために積極的なIR・SR活動を推進し、経営方針や戦略・業績等の、適時適切な情報開示に努めています。また、株主・投資家の皆様から頂いたご意見や対話の結果を経営に反映させるべく努力しています。

株主・投資家との対話の状況

株主総会・株主通信

三菱電機は、定時株主総会を毎年6月下旬に開催しております。株主総会については、株主の皆様と直接コミュニケーションできる貴重な機会と認識し、以下のような取組みを実施しています。

- 招集通知の電子提供措置を5月末、発送を6月初旬に行い、議案の検討に必要な時間を確保
- 書面交付請求を行っていない株主の皆様へ、招集通知から一部抜粋した書面を発送
- インターネット及び議決権電子行使プラットフォームより議決権を行使いただける環境を整備
- 株主総会のライブ配信や事前ご質問の受け付け等、当日のご来場が難しい株主の皆様にも、株主総会のご視聴やご質問を実施いただける環境を整備
- ビジュアルプレゼンテーションによって事業戦略や業績等の説明を行い、株主の皆様によりわかりやすい説明を実施
- 頂いたご質問に対して丁寧な回答を行い、誠実かつ建設的な対話を志向

また、毎年12月初旬には、第2四半期累計期間の概況と今後の取組みについてまとめた「株主通信（中間報告書）」を株主の皆様にお届けし、三菱電機グループへの理解を深めていただくよう努めています。



株主通信

IR・SR活動

1. IR・SR活動の体制

三菱電機は、持続可能な成長と中長期的な企業価値の向上に向けた取組みを推進するために、株主を含めたステークホルダーとの対話は非常に重要であると認識しています。この認識に基づき、積極的な対話を通じてその意見を真摯に受け止め、経営に反映させることが重要であると考え、これを株主・投資家との建設的な対話に関する基本的な考え方としています。

三菱電機では、IR・SR室を社長直轄組織として設置し、CSOを株主・投資家との対話全般の統括を行う執行役としています。株主・投資家との対話は、CEO及びCFO等の経営トップが中心となり、IR・SR室をはじめとする関係部門等が実施しています。

この体制の下、株主・投資家の皆様とのより充実した対話の実施や適時適切な情報の提供に加え、オフィシャルウェブサイトを通じて、各種説明会のオンデマンド配信や説明資料の掲載を行う等、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションツールの充実に努めています。

対話において得られた反応や意見、投資家動向、個別面談結果については、取締役会及び執行役員会議に報告します。その上で、取締役会では独立社外取締役の意見も踏まえた十分な議論を行い、関係部門にフィードバックを行うほか、意見を踏まえた改善施策についても、報告いたします。

2. 2022年度の実績

2022年度においては、経営層による海外投資家との個別面談を実施する海外ロードショーをはじめ、対面式での個別面談を再開し、国内外の株主・投資家の皆様との直接対話の機会が徐々に戻りました。面談においては、当社経営戦略・経営計画やESG、当社品質不適切行為及びその再発防止策を含む3つの改革等のテーマを中心に対話いたしました。

主な活動は次のとおりです。

- 国内外でのオンライン及び、対面式による個別面談の実施（延べ661名）
- 決算説明会(4回/年)、経営戦略説明会(1回/年)等各種説明会、経営層とのスモールミーティング等の開催
- 海外ロードショーの実施、海外投資家向けカンファレンスに参加